

第9回六義園・巣鴨の街歩き

街歩きクラブ
事務局:石黒

1. 訪問地 六義園・巣鴨の街歩き
2. 実施日 平成31年3月26日(火)
3. 集合時間 JR駒込駅 午前9時(南口改札前)
4. ポイント

平成の最後の年となる今年は、1月に隅田川の七福神巡りでスタートしました。2月は寒いのでお休みにしましたが、春は桜の花を見る街歩きが良いのではないかと場所を探しておりました。昨年の街歩きでクラスの戸澤さんが、ガイドしている六義園のシダレザクラが素晴らしいので如何ですかとの申し出があり実現しました。

5. コース

駒込駅 (となり) 染井吉野桜記念公園 (5分) 六義園染井門
9:00 9:30

(2時間園内一周) 染井門 11:30 電車の方は巣鴨駅で合流 巣鴨駅 (20分)

真性寺(六地藏)・とげぬき商店街・地藏 (10分) 鶴すし昼食 一次解散 ①帰宅
12:00 お参り 12:30~13:30 ②商店街自由散策
③飲み会へ

○もの足りない方(都電に乗ってみたい方には午後の部も用意してあります)

鶴すし (20~30分) 商店街歩く 庚申塚 (都電)王子駅前 桜が咲いていたら飛鳥山
13:30 14:00 14:30 帰宅解散—王子駅へ

飛鳥山(花見) 王子駅 (解散)
16:00

★六義園

六義園は、約300年前の5代将軍綱吉公の側用人でありました、柳沢吉保公が加賀藩の中屋敷の一部(4万6千坪)を拝領して、柳沢家の下屋敷として駒込の地に造り上げた回遊式築山泉水庭園です。出来上がったのは元禄15年(1702年)で、吉保の趣味である和歌・儒学・仏教を柱とした大名庭園です。当時の吉保は川越藩の藩主で幕府の役職も務めており図面を見ながら指示して、7年半の歳月が掛かりました。この庭園は柳沢吉保が生涯打ち込んだ和歌の世界が随所に見られます。

『六義』とは中国の古い詩の書である『詩経』にならい、古今和歌集の序にある和歌の分類法にちなんだものです。

明治時代に入って、三菱の創設者である岩崎弥太郎の別邸となり、その後岩崎家より東京市に寄付され昭和28(1938年)国の特別名勝に指定されました。



満開のシダレザクラ



駒込駅の近くにある染井吉野桜記念公園に集合し、本日ガイドをお願いした戸澤さんの1日が始まる。



駒込駅に近い染井門の入り口、通常は閉門してある。入り口の看板にはシダレザクラが「見頃」との表示がしてある。期待でワクワクする。



入り口を入った所で、六義園の解説を戸澤ガイドさんから受ける。



大泉水の向こうに、手入れされた松林は湖面に反映されて綺麗であった。



有名なシダレザクラ、横幅 20m高さ 5mで3月のお彼岸のころ咲くので名前がついた。樹齢は昭和30年頃植えられた。曇っていて残念。



「つつじ茶屋」明治年間につつじの古木を用いて建てられたものです。柱はねじれ曲がっていて、戦災を免れ希少な姿を伝えています。



園内で一番高い標高 35mの藤代峠(紀州にある同名の峠)素晴らしい展望である



「渡月橋」2枚の大岩の重量感が、辺りの雰囲気を引き締めている。紅葉の時期に来てみたい。



巢鴨地蔵に向かう途中に徳川慶喜の巢鴨屋敷跡の石碑があった。



江戸六地蔵の 1 つとして真性寺は江戸六街道の出入口に置かれ旅の安全を見守ってくれた。



巢鴨地蔵通りで江戸時代は旧中山道で日本橋を出て最初の休憩所として栄えた。



「洗い観音」観音像に水をかけ自分の悪い所を洗うと治るとい信仰。「高岩寺」



巢鴨で 70 年以上を誇る老舗店舗、三代目が創作料理を提供。



「焼きはらちらし」大トロサーモンハラスウニ焼きすしネタを細かくしたばらちらしです。岩塩をかける。



「焼きばらちらし」を注文した人達、この列は酒飲みグループの面々。



こちらの列はソフトドリンクグループ。



美味しい「焼きばらちらし」を紹介してくれた戸澤さんに感謝感謝。



「焼きばらちらし」と「すみれ」を注文したグループ。



懐かしい都電荒川線、飛鳥山駅で降りて飛鳥山公園に向かう。



飛鳥山の少し早い桜を見ながら王子駅に向かう。皆さん長時間歩いたが足取りが軽やかであった。

★今回のガイドはクラスの戸澤さんをお願いしました。詳しい資料等を準備して頂き、美味しい食事と、分かり易い解説により会員の皆様も十分満足した街歩きとなりました。戸澤さん有難うございました。